



ナルク川崎

# だるま 会報

〒213-0002川崎市高津区二子2-6-47

にこぶら新地内Tel&Fax (044)712-5441

No.168号(2021年5月)

令和3年5月8日

発行 ナルク川崎 事務局 責任者：花崎良政

ホームページ：http://www.nalc-kawasaki.sakura.ne.jp

メール：nalckawasaki@yahoo.co.jp

## 「ナルクデー」はナルクの誕生日

早くも、新緑の季節を迎えています。お変わりありませんか。新型コロナ禍が衰えず、又変異型も出て、第4波が来ています。ボランティア活動も、依然として、外出自粛や三蜜を避けるため、活動が制約を受け、我慢の毎日です。まずは、自ら身を守り、無理は出来ません。健康第一で過ごしましょう。

さて、ナルクは、平成6年4月20日に設立せられました。この日を忘れず、「ナルクデー」として各地区で、何か、意義ある活動をしようという事です。南関東エリアでは、各拠点の有志から発足当時の思い出や随想を投稿願ひし、もう一度、ナルクの意義を考えようと「特別・思い出集」を発刊致しました。どれも20年以上過ぎた、是非、ご一読願ひ、今後に活かしたいと思ひます。今後ともナルクの精神を共に活かし、頑張っていきましょう。ご支援をよろしく願ひ致します。

## 「ナルク本部の現状と活動方針について」

昨年2月のナルク創業者の高畑名誉会長がお亡くなり、11月の「お別れ会」の予定でしたがこれも中止となり、「追悼文集」で高畑様の思い出を偲びました。ナルクも27年目になり、シニアボランティア団体の草分け的な役割を果たし、全国に110カ所の拠点・海外5拠とも在る大きな団体ですが、高齢化の影響は大きく、死去や体調崩す人も出てきて会員減少の状況が出ています。一方、地域では、ナルクのように、出来る事で出来る時に仲間と交流し奉仕が出来ると新しく入会もあります。ナルク本部はコロナ収束以降をならい、後継者の育成や組織の維持、新しいネットワークの構築などに取り組んでいます。「楽しいナルク」安心のナルク」「感動のナルク」の実践と実現は、今後とも課題の様です。〈花崎〉

## 「ナルク川崎の定時総会」は書面評決で、

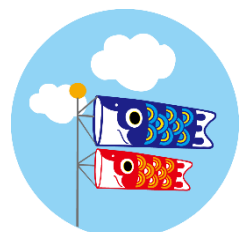
まん延防止や緊急事態宣言も出て、多人数の会議は、困難です。残念ですが、今回も書面評決（全会員に議案書を送り、ハガキに賛否を書いて評価投票する）で参ります。6月初めには、書類をお送りしますので、よろしく願ひします。ご意見がありましたら余白にご記入ください。ナルク川崎も、設立から25年経過し、お互いに高齢化が進み、正直、思う様にいきませんが、お互い同志愛で交流と奉仕の心を大事にしましょう。

## 今年の中央メーデーは中止です。

毎年、春は<労働者の祭典＝メーデー>が開催されます。昨年も代々木公園で1万人以上の労働者が集まりました。ナルクもNPOの代表として、毎年、高畑さんの時代から参加しています。テントを出し、ナルクのチラシを配布するのです。今年は、コロナ禍の緊急事態宣言もあり、中止となりました。東京拠点の方々、吉川代表や市川拠点の方など、参加していましたが、不参加でいいことになりました。例年のないことです。

### <今後の日程>

- \* 5月8日（土）10時～「5月度運営委員会」（於）市民活動センター
- \* 5月28日（金）13時～「本部・定時総会」（於）書面評決
- \* 6月5日（土）10時～「三役企画会議」（於）市民活動センター
- \* 6月12日（土）10時～「6月度・運営委員会」（於）市民活動センター
- \* 6月29日（日）13時～「どんじゃもんじゃ祭り」（於）高津区役所5階



## <寄稿記事> 「コロナ禍での日常」

コロナの為ナルクのボランティアは1年数ヶ月出来ていません。今は巣籠もり状態です。やはり活動が出来て居る時は私も元気に毎日を送っていたような気がします。今日はここ、明日はあそこ本当に楽しみながら活動してました。少し小綺麗にしなくてはと口紅なんかつけたりしてね、、、私は施設で童謡、唱歌、昔の歌など歌っていましたが、月2回10年数ヶ月になると思います。いつも仲間が一人一緒行ってくれました。私たちが何うと皆さん椅子に座って待って居てくださいました。夏の暑い時、冬の寒い時など行くの嫌だなどと思う事もありましたが皆さんが笑顔で迎えて下さいました。やっぱり来て良かったと思いましたし、かえって元気を貰って帰って来ました。今は外出もままならない状態に足腰が弱って気持ちも沈みがちです。でも、毎日歩くようにしています、声を出して歌をうたったり、友達と電話でたわいもない話をしたりビーズ作りをしたり何とか元気に暮らしています。ワクチンが皆が受けられて元の生活に近い毎日が送れるまで、テレビでコロナの話が聞かなくても良くなるまで、少しでも明るく暮らして行きたいと思っています。昨年も今年もナルク恒例のお花見もできませんでした。来年こそ皆で出来るといいですね。



## プラスチックごみをなくそう

(NHKニュース 2020/07/01を編集)

世界では年間約800万トンものプラスチックが、ごみとして海に流れ込んでいるとも推計されています。2050年には、海にいる魚すべての重量よりプラスチックの方が重くなると言われていて、「プラスチックの海」になってしまうのではないかと懸念されています。特に問題になっているのが「マイクロプラスチック」。川から海へと至り、波の力や紫外線の影響などで細かく砕けていく。5ミリ以下になったものはマイクロプラスチックと呼ばれ、世界中の海に存在しています。環境中で自然に分解されることはなくて、半永久的にたまり続ける可能性があります。このマイクロプラスチックが、近年、魚や海鳥の体内から大量に見つかっています。海に広がったマイクロプラスチックを後から回収することはほぼ不可能なので、プラスチックごみ自体を今のうちに減らしていく必要があります。時間とともに風化したり劣化したりして削れていく。そうしたものが捨てられたものと合わさって、いろんなところから海に流れ込む。街角でポイ捨てされたものも一部は海のごみになります。雨と一緒に側溝に流れ込んで川に流れていく。それがやがて海に流れ込む。日本は1人あたりのプラスチック容器包装の廃棄量が世界2位。日本こそがまさにこの問題の当事者だということをやっと理解しなければなりません。政府が策定した「プラスチック資源循環戦略」では、レジ袋の有料化を小売店に義務づけたり、再生可能な素材への代替を進めたりして、使い捨てプラスチックの排出量を2030年までに25%抑制する目標を掲げています。ごみを減らす「Reduce(リデュース)」使い続ける「Reuse(リユース)」再利用する「Recycle(リサイクル)」まずはリデュース。生産と使用をそもそも減らしていけば、リサイクルも処分の問題も生じないでしょう。今のペットボトルが流通してる間はとりあえずリデュースを進めていって、その間に革新的な新素材を生み出すことが必須。私たちのまわりには、プラスチックがあふれている。使わないのはもう無理でしょうが、取り返しがつかないことになる前に…ちゃんと意識して、できることから始めようではありませんか。

